

「韓国延世大学校スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学部2年 金山 真弓

学習成果

私は今回の韓国延世大学校への留学は二度目でした。昨年も私は同大学校に短期留学をし、その時は私の韓国語能力はあまりにも未熟で、授業についていくのに必死でした。韓国語を、韓国語を用いた授業で学ぶという経験を初めてし、語学学習においてもっとも重要なことは、読み書きができることではなく、話すこと、聞くことができることではないかと感じました。しかし、日本ではどうしても韓国語を日常で耳にすることはごくわずかでした。そこで、今回ももう一度語学留学に挑戦しました。今回の留学は昨年度より語学レベルの高いクラスに振り分けられました。そして、昨年度と同様、韓国語による授業が行われました。最初はやはり、慣れない韓国語だけで行われ難しく感じましたが、三週間の期間の中で、次第に韓国語という言葉自体に慣れ、教科書の中の初めて見る文法、言葉だけでなく、現地の韓国人がよく使う日常的な言葉なども効率的に学ぶことができました。私は日本での座学による韓国語学習は基本的な読み書き能力のためにももちろん必要で、しかし、その次のステップとして、語学を学ぶ際には、どうしても現地に赴き、その言葉に慣れ、座学の学習を超えた、話す、聞くための学習とみなすことが重要ではないかと感じました。今後は、再び日本で韓国語をまず座学として学び、そしてまた韓国で現地の方々と話す機会を自分で作り、積極的に韓国以後を学習していきたいと考えています。今回の留学は、語学学習のこの上ない刺激になりました。

海外での経験

海外に三週間留学することで、自分の海外というものに対する意識が変わったように感じます。日本にいるときは海外と聞くと、ただ外国という印象しかありませんでした。しかし、今回の体験で、当たり前のことでありながら、海外というのは自分の使っている言語は通じるとは限らず、自分がその土地の言語を学習し使用しなければ、思っているちょっとしたことさえ相手に伝えられないということを実感しました。しかし、身をもってそのことを体感することで、語学学習の意欲が掻き立てられるように感じます。次回韓国に赴くときは、必ず今回以上に語学能力を上げ、より多くの自分の気持ちを現地の言葉で表現できるように頑張りたいです。

プログラム内容

今回のプログラム内容は、午前は韓国語による韓国語の授業、午後は自由時間というものでした。午前の語学学習は、さまざまな国籍を持つ人と韓国語という一つの言語を学び、授業の後も韓国語を自分たちの公用語として用いて、日本では体験できない貴重な経験をできたと思っています。午後の自由時間も、学校の人以外の現地の韓国人の人と話す機会を作れて、韓国に行ったからこそできる経験でした。

進路への影響

今回の留学で、韓国語を話す能力を必ず身につけるという目標ができたように思います。そのためには、もちろん勉強が必要で、日本で教科書使って文法、単語を学び、再び韓国に赴くつもりです。そして将来は韓国語をマスターして、せつかく学んだ韓国語を利用できる環境の中で生活していきたいと思っています。まだどのような形で、その環境を作れるかはわかりませんが、今回の経験は私の中

